

ジュニア賞

2045年AIとの旅！

鈴木 朝陽（高校3年生：神奈川県）

2045年問題とは、AIが人の知能を超えることで生じる様々な社会問題の総称である。chat GPTの出現により急速に現実味が増してきた。今後、複雑な社会課題を解決していくには、人とAIが互いの長所で助け合い、共生していくべきである。そこで私は、AIと協力して未来をどう切り拓くかを学ぶ“AI共働型”のすごろくゲームを提案する。

このゲームは、世界地図をもとに描かれたすごろくボードを複数のプレイヤーが囲んで行う。止まったマススマートフォンでスキャンすると、その国や地域に関する環境や平和、健康や安全、教育や福祉などの分野における正解のない社会課題が表示され、その解決策の提案がミッションとなる。

ゲームの進行は、順番にダイスを振り、止まったマスの社会課題についてAIと共働しながらミッションを遂行していく。プレイヤーはスマートフォンのマイクやカメラを使い、音声やテキストでAIとコミュニケーションをとって共働する。AIは人ではできない高速な情報収集やデータ分析で人をサポートし、人は豊かな創造力や高度な判断力でAIのサポートを活用する。AIと共働で考えた解決策がまとまったら、他のプレイヤーに発表することでミッションクリアとなる。ここで、他のプレイヤーたちは、その解決策がAIと共働できたかの観点で◎・○・△の3段階で評価をする。◎の場合は、次回ダイスを2つ振ることができ、○はダイス1つのまま、△は1回休みとなる。このようにコマを進めながら、1番早いゴールを目指す。プレイヤーは、AIといかに共働できるかが重要となる。

このゲームの特長は、人とAIが楽しく世界を旅しながら、協力やコミュニケーションのとり方を体験し、社会課題について考えられる点である。2045年問題を身近なものと考え、人とAIが互いの長所で助け合い、不足部分を補うことで、双方にとって過ごしやすい関係で共生できる社会を望む。